

## 「教員免許状更新講習」

### 1. 参加者

	募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
シーカヤック	24名	23名	23名	22名
スノーケリング	24名	16名	16名	14名

### 2. 事業内容（概要）

#### ◆ねらい

- ・体験活動の意義や効果を理解するとともに、実際の自然体験活動を通じて安全に配慮した指導法を体得する。国立若狭湾青少年自然の家の立地・環境を生かした特徴的な体験活動を通しての講習を実施する。

#### ◆期日・期間

2019年10月5日（土）～ 10月6日（日）

#### ◆主催 国立大学法人福井大学

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家

#### ◆参加者分析

- ・募集人員各24名に対して定員以内の申し込みがあった。富山県・滋賀県・岐阜県・京都府・福井県から申し込みがあった。保育園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの様々な校種からの申し込みがあった。事前に3名のキャンセルがあった。宿泊された方が4名・日帰り28名（延べ人数）であった。2種目とも参加された方は10名であった。

#### ◆企画のポイント ◇プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
10月5日（土）	受付	開講式	【講義】「青少年期における自然体験活動の現代的意義—水難防止学習を視点に—」「学校教育に活かす自然体験活動における動機づけ方略」グループごとに意見・実践経験の交流・レポート作成 岐阜聖徳学園大学 教授 稲垣良介 福井大学 准教授 大西将史	昼食・休憩	実習「シーカヤック」 ① 活動実施に際し、計画上の留意点や安全管理の方策について学ぶ。 ② 実際の活動を体験しながら、より教育効果を高める指導方法について学ぶ。 国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職 大江勝次	評価試験	閉講式 解散				
10月6日（日）	受付	開講式	【講義】「青少年期における自然体験活動の現代的意義—若者自立支援実践から捉え直す—」「子どもの発達と自然体験活動」グループごとに意見・実践経験の交流・レポート作成 天理大学 准教授 杉山晋平 福井大学 准教授 岸 俊行	昼食・休憩	実習「スノーケリング」 ① 活動実施に際し、計画上の留意点や安全管理の方策について学ぶ。 ② 実際の活動を体験しながら、より教育効果を高める指導方法について学ぶ。 国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職 大江勝次	評価試験	閉講式 解散				

◇講師	岐阜聖徳学園大学	教授	稲垣 良介 氏
	天理大学	准教授	杉山 晋平 氏
	福井大学	准教授	岸 俊行 氏
	福井大学	准教授	大西 将史 氏
	国立若狭湾青少年自然の家	企画指導専門職	大江 勝次

#### ◆運営のポイント

- ・シーカヤックやスノーケリング体験の中で、学級指導や学級経営につながる場面を取り上げて紹介したり考えてもらったりすることで、日々の学習活動の中にもそういった場面が多くあることに気づき、今後の学級経営や学習指導につながっていくように活動を進めた。
- ・体験活動では、活動の中に潜む危険にも触れ、活動そのものが安全に展開されることの重要性を伝えた。また、活動内容を具体的に見える形で伝えることでより理解が深まると考えた。
- ・各学校での自然体験活動での運営者となることから、運営面での配慮となる内容を説明に入れた。

#### ◆安全管理のポイント

- ・十月の月上旬に実施されたので参加者の体調面に配慮することを最優先し、天候に応じて実習時間や内容を臨機応変に対応する。
- ・活動場所や道具について、安全に運用できるように点検をしておく。

### 3. アンケート結果

#### (1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	64%	28%	8%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	64%	32%	4%	0%
この事業の運営はどうでしたか	72%	24%	4%	0%
指導・助言や対応はいかがでしたか	88%	12%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

#### (2) 参加者の声

- みんな生き生きと「体験してみたい」感が強く、やりがいのある講習だと思います。
- 講義がとてもおもしろく、考え直すことができました。
- 体験活動については、学びを新たにできてよかったです。
- 講義と実習の関連づけには、やや無理を感じる。
- 波が高く、シーカヤックで海に出られなかったのは残念です。

### 4. 成果と課題

#### (1) 成果

- 全体的に体験活動の時間が多く設定されており、自然の中でゆったりと満足のいく体験活動となった。参加者には、安全面など学んだことを学校での自然体験活動に活かしていきたいと思ってもらえた。
- 2日間とも講義だけでなく、実技（2種類）もあったので、参加者が意欲的に参加してもらえる更新講習となった。

#### (2) 課題

- 今年度、1日目のシーカヤックは海が荒れ、海での活動は中止し、陸上でシーカヤックを使って活動内容についての指導を行った。今後は、海での活動が実施できない場合は、海以外の「塩づくり」「火おこし」「ハイキング」などの体験活動を準備しておきたい。
- 昨年度は、定員を上回る申し込みをいただき、何名かお断りをした。今年度は、定員以下だったが、来年度は多くの受講希望者に対応できる様に各日定員を24人から36人に拡大して募集をすることを決めた。
- 講義の内容と実技の関連づけができていなかったみたいなので、職員がより関連付けができる様に事前に講義の内容を聞いておくことも大事だと思った。